

TALK IN JAPANESE FOR 6 WEEKS

# WEEKLY

日本語で話す 6 週間

book 1

## 【トレーニングのヒント】 (week 1 編)

\* トレーニングは、スポーツ感覚で体（口）に覚えさせましょう！

## Unit 01 「～う・ようと思っています」

### \*意向形がすらすら言える

(→「トレーニングのヒント (活用編)」参照)

## Unit 02 「感情の語彙」「Vたとき」

### \* 感情の語彙を覚える

p. 6 のイラストをカードにして、感情の形容詞が言えるようにします。

#### 【用意するもの】

- ・ p. 6 のイラストをカードにしたもの

#### 【手順】

- ①ペアになる。
- ②カードをめくり、その語彙を言う。

### \* 「Vたとき」がすらすら言える

前件と後件のマッチングをします。

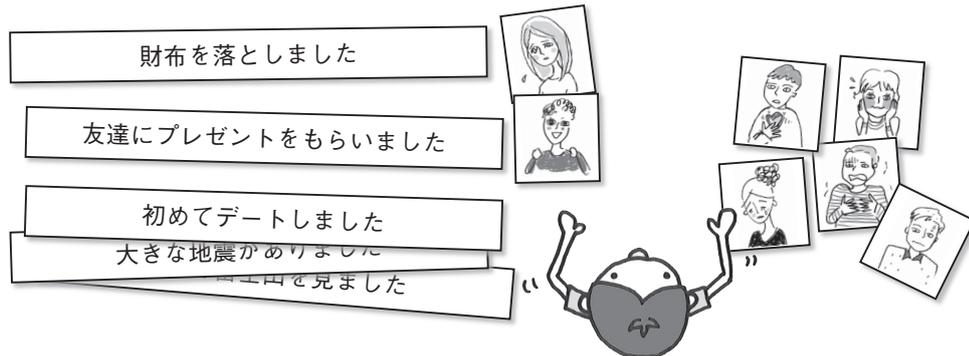
#### 【用意するもの】

- ・ 前件用文字カード (例) 「財布を落としました」「友達にプレゼントをもらいました」など
- ・ 後件用絵カード (p. 6 の絵カードをカードにしたもの)

#### 【手順】

- ①前件カードと、後件カードの意味が通じるよう、ペアを作って並べる。

(例)



- ②教師がチェックする。

- ③前件を「Vたとき」にして、文をすらすら言う。



財布を落としたとき、がっかりしました。

友達にプレゼントをもらったとき、うれしかったです。

## Unit3 普通形・「～か・かどうか」

### \* 普通形がすらすら言える

(→「トレーニングのヒント (活用編)」参照)

### \* 「～か・かどうか」がすらすら言える

問題を聞いて「～か・かどうか」の形に変換する練習をします。

#### 【用意するもの】

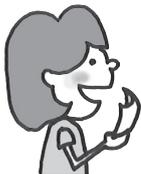
- ・学習者 A 用と学習者 B 用、2つのパターンのタスクカード  
(タスクカードの例)

日本語が通じますか  
病気になりませんか  
どこに学校がありますか  
友達ができますか

#### 【手順】

- ①ペアで学習者 A は自分のタスクカードを読む。  
(例) 学習者 A: 「日本語が通じますか」
- ②学習者 B は、学習者 A が言った文を聞いて「～か・かどうか」の形にする。  
(例) 学習者 B: 「日本語が通じるかどうか」

学習者 A



日本語が通じますか  
病気になりませんか  
どこに学校がありますか  
友達ができますか

学習者 B

日本語が通じるかどうか  
病気になるかどうか  
どこに学校があるか



#### トレーニングのヒント

- \* 問題を出す学習者 A は、タスクカードを学習者 B に見せないようにしましょう。耳のトレーニングにもなります。
- \* 問題を出す学習者 A には、学習者 B が聞き取りやすい発音をするよう指導しましょう。

## Unit4 「Vことができる」

### \* 「Vことができます」がすらすら言える

p.17の【練習しよう】Q1をトレーニングに使用して、すらすら言えるようにします。

#### 【用意するもの】

- ・テキスト p.17 【練習しよう】 Q1

#### 【手順】

- ①ペアになる。
- ②テキスト p.17 【練習しよう】 Q1 を使って、ペアでなるべく多くの「Vことができます」を挙げさせる。
- ③クラス全体で、答えを挙げる。ペア対抗で競ってもいい。
- ④②で、クラス全体で確認したものがすらすら言えるように、ペアで練習する。

## Unit5 言葉を増やす・「～方」

### \* 言葉を増やして、「～方」がすらすら言える

p.19【言葉を増やそう】のイラストを使用して、教師役 A と、学生役 B のペアになって、トレーニングします。

(→「トレーニングのヒント (活用編) トレーニング方法 B」参照)

[用意するもの]

- ・テキスト P19【言葉を増やそう】

[手順]

- ①ペアになり、教師役と、学生役を決める。
- ②教師役は、P19 の [言葉を増やそう] 絵を指し、学生役に答えさせる。  
(例) 教師役：「③番」
- ③学生役は指示された絵を見て、動詞を答える。  
(例) 学生役：「ホテルを予約する」
- ④教師役・学生役を入れ替える。
- ⑤②～③の手順で「○○方」の練習をする。  
(例) 教師役 A：「③番」  
学生役 B：「ホテルの予約のし方」